

令和3(2021)年度 東京大学大学院総合文化研究科 多文化共生・統合人間学プログラム博士後期課程学生募集要項

言語情報科学専攻・超域文化科学専攻
地域文化研究専攻・国際社会科学専攻

教育研究上の目的

本研究科は、学際性および国際性を教育・研究の柱として専門分野についての深い理解の上に立った領域横断的研究による知の創成をめざし、確かな教養に支えられた総合的判断力をもって現代の社会と科学技術の様々な課題に取り組む能力をもち、教育・研究の分野のみならず社会の実践的分野においても国際的に指導的役割を果たすことのできる人材を養成することを目的とする。

入学者受入方針

東京大学大学院総合文化研究科多文化共生・統合人間学プログラム博士課程では、以下の求める学生像及び入学者選抜の基本方針に基づき、入学者の選抜を行います。

求める学生像

本プログラムは、多文化共生の理念の構築を先導する人材に必要な学知を、専門性を備えたうえでさらに広い視座を持ち新たな価値の創造を可能とする新しい教養と定義し、「統合人間学」と特徴づける。本プログラムによって養成する人材は、統合人間学という21世紀型の新しい教養を修得し、多文化共生社会という人類に課せられた重要なテーマに取り組むことのできる次世代トップリーダーである。

入学者選抜の基本方針

- ・志望する専門分野に関する十分な知識を身につけているとともに、当該分野と関連する学問全般にわたって幅広い知識や教養を有していること。
- ・単なる知識の量だけでなく、そこから自らが主体的に新たな問題を発見し、知識を獲得しながらその問題を解決する能力、創発的な議論を展開する能力を具えていること。
- ・当該分野に係る資料・文献を読みこなすことができ、将来国際的な場でも活躍し得るだけの語学力の基礎を具えていること。

1. 出願資格

- (1) 本学において令和3(2021)年3月31日までに修士の学位又は専門職学位を得る見込みの者(第1号)
- (2) 本学において修士の学位又は専門職学位を得た者(第2号)
- (3) 本学以外の日本の大学において、修士の学位又は専門職学位を得た者及び令和3(2021)年3月31日までに修士の学位又は専門職学位を得る見込みの者(第3号)^{注1)}
- (4) 大学改革支援・学位授与機構により、修士の学位を授与された者及び令和3(2021)年3月31日までに授与される見込みの者(第4号)
- (5) 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和3(2021)年3月31日までに授与される見込みの者(第5号)^{注2)}
- (6) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和3(2021)年3月31日までに授与され

る見込みの者(第6号)

- (7)国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者及び令和3(2021)年3月31日までに授与される見込みの者(第7号)
- (8)外国の学校、上記出願資格(6)の指定を受けた教育施設又は国際連合大学において、大学院設置基準第16条の2に規定する博士論文研究基礎力審査に相当するものに合格した者及び令和3(2021)年3月31日までに合格する見込みの者で、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると本研究科において認めた者(第8号)^{注3)}
- (9)日本の大学を卒業又は外国において学校教育における16年の課程を修了した者で、日本又は外国の大学若しくは研究所等において2年以上研究に従事した者及び令和3(2021)年3月31日までに2年以上研究に従事する見込みの者で、当該研究の成果等により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると本研究科において認めた者(第9号)^{注1) 注2) 注3) 注4)}
- (10)個別の入学資格審査をもって、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると本研究科が認めた者で、入学時において24歳に達している者(第10号)^{注5)}

注1)上記(3)、(9)の「日本の大学」とは、学校教育法第83条の定める日本国内の大学を示す。

注2)上記(5)、(9)には、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了した場合を含む。

注3)上記(8)又は(9)の資格により出願しようとする者は、出願前に書類による入学資格審査を行うので、本研究科の指定する書類等を令和2(2020)年10月6日(火)から10月13日(火)までに本研究科事務部(6.(1)ウ.)に提出すること。提出書類等については事前に本研究科事務部に問い合わせること。
なお、審査の結果は、令和2(2020)年11月27日(金)頃各自に通知する。

注4)上記(9)において、「2年以上研究に従事した者」(又は従事する見込みの者)とは、原則として、常勤又はこれに準ずる身分として2年以上研究に従事した者(又は従事する見込みの者)とする。

注5)①上記(10)に該当する者とは、上記(1)から(9)に該当しない者のうち、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると本研究科において認めた者とする。

②上記(10)の資格により出願しようとする者は、出願前に書類による個別の入学資格審査を行うので、本研究科の指定する書類等を令和2(2020)年10月6日(火)から10月13日(火)までに本研究科事務部(6.(1)ウ.)に提出すること。出願資格及び提出書類等については、事前に本研究科事務部に問い合わせること。

③上記(10)に該当する者で、入学資格審査で修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると本研究科において認めた者について、出願を受け付け、受験を許可する。なお、審査の結果は、令和2(2020)年11月27日(金)頃各自に通知する。

2. 募集人員

- (1)多文化共生・統合人間学プログラムの学生は、以下の4専攻のいずれかに所属することになる。専攻別には募集定員を定めず、プログラム全体として学生を募集する。ただし、志願者は、各自の研究テーマに基づき、志望専攻を第3志望まで決めて出願しなければならない。入学後は、所定の専攻に所属しつつ、本プログラム独自のカリキュラムを履修する。

専攻	募集人員
言語情報科学	} 6名
超域文化科学	
地域文化研究	
国際社会科学	

(2) 超域文化科学専攻及び国際社会科学専攻を志望する者は、分野も決めて出願すること。分野は以下のとおり。

超域文化科学専攻（表象文化論分野・文化人類学分野・比較文学比較文化分野）
国際社会科学専攻（国際関係論分野・相関社会科学分野）

(3) 試験の成績によっては、合格者数が募集人員を上回る場合又は下回る場合がある。

3. 選抜方法

(1) 入学者の選考は、修士の学位論文又はこれに代わるものの審査、英語能力を証明する書類^註、出身学校の学業成績、研究計画書及び口述試験による。

(2) 口述試験は、提出論文及び志望する専門分野等について日本語又は英語で行う。その際、外国語及び専門分野について学力検査(筆記試験を含む)を行うことがある。なお、論文を含む出願書類の審査で、口述試験を行わずに不合格とすることがある。

注) 出願資格第3号、第4号、第5号、第6号、第7号、第8号、第9号及び第10号による出願者については、英語の能力を証明する書類として、出願時から起算して2年以内に受験したTOEFL(PBT又はiBT)又はIELTS(Academic Modules)の成績を提出しなければならない。

なお、英語以外の言語の能力を示すために、TOEFL又はIELTSの成績票に加え、その言語の能力を証明する書類を入学願書に添付することができる。

4. 試験期日及び場所

(1) 出願資格第1号による出願者の選考期日及び場所は、出願後各自に通知する。

(2) 出願資格第2号、第3号、第4号、第5号、第6号、第7号、第8号、第9号及び第10号による出願者については、令和3(2021)年1月28日(木)～2月10日(水)(このうち1日)に選考試験を行う。

口述試験の有無等、詳細な日時及び場所は、令和3(2021)年1月21日(木)正午に総合文化研究科掲示場(東京大学教養学部正門入って左側)に発表するとともに、各自に通知する。

5. 合格者の発表及び入学手続

(1) 合格者については、受験番号を令和3(2021)年3月2日(火)正午に、総合文化研究科掲示場(東京大学教養学部正門入って左側)に発表するとともに本人宛に通知する。

なお、電話による問い合わせには一切応じられない。

(2) 入学許可の通知は、令和3(2021)年3月2日(火)頃、本人宛郵送により行う。

(3) 入学許可の通知を受けた者は、その際に送付された入学手続要領に従って、令和3(2021)年3月中の所定の期間内に、必要な入学手続(入学料の納付及び入学手続書類の提出)を行うこと。

所定の期間内に入学手続を行わない場合には、入学しないものとして取り扱う。

(4) 入学時に必要な経費(令和3(2021)年度予定額)

(日本政府(文部科学省)奨学金留学生に対しては徴収しない。)

ア. 入 学 料 282,000円(予定額)

イ. 授 業 料 前期分260,400円(年額 520,800円)(予定額)

注) 上記納付金額は、予定額であり、入学時又は在学中に学生納付金改定が行われた場合には、改定時か

ら新たな納付金額が適用される。

6. 出願手続

(1) 出願方法

ア. 出願資格第1号による出願者の書類の提出方法及び受付期間

a. 書類の提出方法

出願にあたっては、下記(2)のア. オ. ケ. コ. サ. シ. を一括して本研究科所定の封筒に入れ、本研究科事務部(6.(1)ウ.)に直接持参して提出すること。郵送は認めない。ただし、本研究科の修士課程に在籍している者で、多文化共生・統合人間学プログラムに所属していない者及び他の研究科を修了する予定の者は、下記(2)のイ. ウ. カ. も併せて提出すること。イ. ウ. については、各自で用意した封筒に入れて提出すること。

b. 受付期間

令和2(2020)年12月2日(水)から12月10日(木)まで(土曜日及び日曜日を除く)

受付時間は、午前9時から午後4時50分まで。

なお、受付期間内に所定の書類等が完備しない願書は受理しない。

イ. 出願資格第2号、第3号、第4号、第5号、第6号、第7号、第8号、第9号及び第10号による出願者の書類の提出方法及び受付期間

a. 書類の提出方法

出願にあたっては、下記(2)を一括して本研究科所定の封筒に入れ、郵便局で「書留速達郵便」と指定して郵送すること。ただし、下記(2)のイ. ウ. エ. オ. ク. については、各自で用意した封筒により、郵便局で「書留速達郵便」と指定して郵送すること。なお、出願資格第2号による出願者のうち、本研究科多文化共生・統合人間学プログラム修士課程以外を修了した者は、下記(2)のク. は提出不要。また、本研究科多文化共生・統合人間学プログラム修士課程を修了した者は、下記(2)のカ. キ. ク. は提出不要。

また、日本国外から郵送する場合は、事前に本研究科事務部(6.(1)ウ.)に申し出ること。

b. 受付期間

令和2(2020)年12月11日(金)から12月15日(火)まで

(令和2(2020)年12月16日(水)以降に到着したものについては、12月15日(火)までの消印があるものに限り有効とする。)

ただし、下記(2)のイ. ウ. エ. オ. ク. については、令和2(2020)年12月11日(金)から令和3(2021)年1月5日(火)まで(令和3(2021)年1月6日(水)以降に到着したものについては、1月5日(火)までの消印があるものに限り有効とする。)

なお、受付期間内に所定の書類等が完備しない願書は受理しない。

ウ. 受付場所(あて先)

〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1

東京大学大学院総合文化研究科事務部教務課総合文化大学院チーム

電話 03-5454-6050(6049)

(2) 出願書類等

出願書類等の書式及び提出部数については、博士後期課程入学試験案内を必ず参照すること。

ア. 入学願書 本研究科所定の用紙に所要事項を記入したもの。

イ. 論文 修士の学位論文又はこれに代わるもの(本研究科所定の論文添付票を貼付すること)。すべてコピーでよい。なお、出願資格第2号、第3号、第4号、第5号、第6号、第7号、第8号、第9号及び第10号による出願者は、修士論文(又はこれに代わるもの)に加えて、審査の参考となり得る論文があれば、所定の期間内にそれを提出してもよい。

ウ. 論文要旨 「入学試験案内」の【提出書類等一覧】に指定された書式により作成し、

本研究科所定の論文要旨添付票を貼付すること。

- エ. 研究業績一覧 研究業績のある者は、「入学試験案内」の【提出書類等一覧】に指定された書式により作成し、提出すること。
- オ. 研究計画書 「入学試験案内」の【提出書類等一覧】に指定された書式により作成し、提出すること。
- カ. 成績証明書
(原本に限る) 出身学校において発行されたもので、大学在学時以降の全ての成績証明書を提出すること。
- キ. 修了証明書
(原本に限る) 在学中の者は3月の入学手続の際に提出すること。修了見込証明書は不要。なお、外国の大学院を修了した者は、修士の学位が確認できる証明書を併せて提出すること。
また、外国の大学で証明書を発行できない場合があれば、事前に本研究科事務部(6.(1)ウ.)に問い合わせること。
- ク. TOEFL又は
IELTSの成績票 出願時から起算して2年以内に受験したTOEFL(PBT又はiBT)又はIELTS(Academic Modules)の成績票(TOEFLについてはETS(Education Testing Service)より送付されたTest Taker Score Reportのコピーを提出すること。ETSからの直接送付による提出は認めない。)
なお、iBTの場合はネット経由で提示された成績票のプリントアウトを提出してもよい。ただし、Test Taker Score Reportも取得しておくこと(提出されたものと後に照合するため)。
なお、TOEFL iBTテストのTest Taker Score Reportについては、Test Date スコアに加え、MyBestスコアも出願スコアとして活用する。
- ケ. 写真3葉
(同一のもの) 3か月以内に撮影した正面上半身脱帽のものを、願書及び受験票に貼付して提出すること。
- コ. 受験票送付用封筒 本研究科所定のものに出願者本人のあて名を記入し、374円分の切手を貼ること。
- サ. 口述試験通知用封筒 本研究科所定のものに出願者本人のあて名を記入し、374円分の切手を貼ること。
- シ. 宛名ラベル 本研究科所定のものにそれぞれの送付物を受信する場所(日本国内)を記入すること。
- ス. 検定料 30,000円(出願資格第1号による出願者は不要。)
【銀行振込】又は【コンビニエンスストアでの払込】、【ペイジー対応ATM、ペイジー対応ネットバンク、ネット専業銀行での払込】若しくは【クレジットカード・中国オンライン決済(アリペイ・銀聯)での払込】のいずれかに限る。いずれの場合においても振込手数料又は払込手数料は出願者本人の負担となる。
(外国人出願者のうち日本政府(文部科学省)奨学金留学生は、検定料は不要。ただし、本学に在学中(研究生を含む)の者以外は、日本政府(文部科学省)奨学金留学生である証明書を提出すること。)

(1) 【銀行振込の場合】

所定の振込依頼書に必要事項を記入のうえ、最寄りの金融機関(ゆうちょ銀行・郵便局不可)から振り込むこと(ペイジー対応ATM、ペイジー対応ネットバンク、ネット専業銀行での所定の方法での払込の場合を除き、ATM、インターネット等は利用しないこと)。

振り込みの際、振込金受取書(B票)及び振込金受付証明書(C票)を受け取り、振込金受付証明書(C票)を入学願書(正)の裏面の所定欄に貼り付けること。

振込金受取書(B票)は領収書なので、大切に保管すること。

※ゆうちょ銀行・郵便局、A T M、インターネットでの振込では、「振込金
受付証明書（C票）」が発行されないので利用しないこと。

(2)【コンビニエンスストアでの払込の場合】

セブン-イレブン、ローソン、ファミリーマート、ミニストップに限る。
払込に関する操作手順や注意事項については、別紙の「東京大学大学院
総合文化研究科 検定料払込方法」を参照のうえ、払い込むこと。払い
込み後、「入学検定料・選考料 取扱明細書」の「収納証明書」部分を
切り取り、入学願書(正)の裏面の所定欄に貼り付けること。

(3)【ペイジー対応A T M、ペイジー対応ネットバンク、ネット専門銀行での払
込の場合】

払込に関する操作手順や注意事項については、別紙の「東京大学大学院総
合文化研究科 検定料払込方法」を参照のうえ、払い込むこと。払い込み
後、E-支払いサイトの「申込内容照会」にアクセスし、受付完了時に通知
された【お客様番号】と【生年月日】を入力し、照会結果を印刷して出願
書類に同封すること。

(4)【クレジットカード・中国オンライン決済（アリペイ・銀聯）での払込の
場合】

クレジットカードは、ビザカード(VISA)、マスターカード(Master)、J C B
カード、アメリカン・エクスプレスカード(American Express)が利用可能。
払込に関する操作手順や注意事項については、別紙の「東京大学大学院総合
文化研究科 検定料払込方法」を参照のうえ、払い込むこと。払い込み
後、E-支払いサイトの「申込内容照会」にアクセスし、受付完了時に通知
された【受付番号】と【生年月日】を入力し、照会結果を印刷して出願書
類に同封すること。

(3)外国人出願者は、上記(2)の出願書類等のほかに、次の書類を提出すること。

日本語能力証明書 本研究科所定の用紙に日本語の指導教授又はこれに準ずる者が記入したもの。
ただし、日本の大学を卒業した者及び日本の大学院を修了した者又は修了
見込みの者は、提出不要。

7. 注意事項

- (1)同一年度において、本研究科内の2つ以上の専攻(分野・系)及びプログラムに出願することはできない。また、他の研究科等と重複して入学することはできない。
- (2)出願手続後は、どのような事情があっても、書類の変更は認めない。また、検定料の払い戻しはしない。ただし、出願以降において、氏名、現住所、受信場所等に変更が生じた場合には、速やかに本研究科事務部(6.(1)ウ.)に届け出ること。
- (3)受験票は令和3(2021)年1月15日(金)頃に、直接本人宛に郵送する。送付予定日から7日間経過しても到着しない場合は、本研究科事務部(6.(1)ウ.)に連絡すること。
- (4)障害等のある者は、受験及び修学上特別な配慮を必要とすることがあるので、これを希望する者は出願前のできるだけ早い時期に本研究科事務部(6.(1)ウ.)に申し出ること。
- (5)在職中の者は、大学院に入学を許可された場合、在学期間中は大学院の学業に専念すること。
- (6)事情によっては、出願手続、試験期日等を変更することがある。その場合は、あらためて通知する。
- (7)提出論文等は、返却しない。
- (8)外国人は、入学手続までに、「出入国管理及び難民認定法(昭和26年政令第319号)」において大

学院入学に支障のない在留資格を有すること。

- (9)入学手続後は、どのような事情があっても、入学料の払い戻しはしない。
- (10)出願に当たって知り得た氏名、住所その他の個人情報については、①入学者選抜（出願処理、選抜実施）、②合格発表、③入学手続業務を行うために利用する。また、同個人情報は、入学者のみ①教務関係（学籍、修学等）、②学生支援関係（健康管理、就職支援、授業料免除・奨学金申請、図書館の利用等）、③授業料徴収に関する業務を行うために利用する。
- (11)入学者選抜に用いた試験成績は、今後の本学の入試及び教育の改善に向けた検討のために利用することがある。
- (12)出願書類における履歴等について虚偽の記載をした者は、入学後においても遡って入学を取り消すことがある。
- (13)東京大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づいて「東京大学安全保障輸出管理規則」を定めて、技術の提供及び貨物の輸出の観点から外国人留学生の受入れに際し、厳格な審査を行っている。

規制されている事項に該当する場合は、入学が許可できない場合や希望する研究活動に制限がかかる場合があるので、注意すること。なお、詳細については、以下の本学安全保障輸出管理支援室ホームページを参照すること。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/export-control/ja/rule.html>

令和2(2020)年7月